

② 竜巻等突風への対応

竜巻等突風については発生予測が困難であり、移動速度も速いため、気付いてから避難行動をとるまでの時間的余裕のない状況が想定されます。以下に示す例を参考に学校独自のマニュアルを作成し、教職員の研修で共通理解を図るとともに、児童生徒の訓練を行うことが必要です。

予想される状況	教職員の対応	児童生徒等の対応
<ul style="list-style-type: none"> <li>竜巻注意情報の発表。</li> </ul>	<b>【初期対応】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>気象情報を随時確認→児童生徒等の安全確保について速やかに検討→教職員の体制整備</li> <li>転倒や移動のおそれのあるものを固定する。</li> <li>風圧によるドアの開閉や窓ガラスの飛散によるけがの防止等を図る。</li> </ul>	
	<b>【 校 内 】</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>屋外にいる場合 空の様子に注意し、早めに校舎内に避難させる。</li> <li>屋内にいる場合も、空の様子に注意し、より頑丈な建物、また建物の最下階への移動を検討する。</li> <li>児童生徒等に対し適切な安全確保について指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員の指示に従い、屋外にいる場合は早期の避難、屋内にいる場合は避難場所の確認等、適切な安全確保に努める。</li> </ul>
	<b>【 校 外 】</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>空の様子に注意し、近くの頑丈な建物に、早めに避難させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員の指示に従い、早めに避難する。</li> </ul>
	<b>【 登 下 校 時 】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>登校前においては、緊急連絡網等を用い、できる限り家庭での待機を呼びかける。</li> <li>下校前においては、原則学校待機とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分自身で空の様子に注意し、近くの頑丈な建物の中に早めに避難する。</li> </ul>	



予想される状況	教職員の対応	児童生徒等の対応
<ul style="list-style-type: none"> <li>漏斗(ろうと)状の雲、ジェット機のような轟音、耳に異常を感じるほどの気圧の変化。</li> <li>竜巻等突風の接近。</li> </ul>	<b>【 校 内 】</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>屋外にいる時は、校舎など頑丈な建物に避難させる。物置やプレハブ(仮設建築物)などには避難させない。</li> <li>屋内にいるときは、児童生徒等を教室に集め、教室の窓、カーテンを閉め、窓からできるだけ離れさせ、身の回りの物で頭と首を守らせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員の指示に従い、避難するとともに、適切な安全確保に努める。</li> </ul>
	<p>※ 頭と首を守る工夫(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>帽子や防災頭巾をかぶる</li> <li>机を壁に寄せて固めシェルターをつくり、机の下に潜る</li> <li>ランドセルを背負い、ランドセルカバーを開け、頭を覆う</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>可能であれば、より頑丈な建物、また建物の最下階に移動させる。できれば窓のない部屋の壁に近い所で避難姿勢をとらせる。</li> </ul>	
	<b>【 校 外 】</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>近くの頑丈な建物に直ちに避難させる。</li> <li>物置やプレハブ(仮設建築物)などには避難させない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員の指示に従い、直ちに避難する。</li> </ul>
<b>【 登 下 校 時 】</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>登校前においては、緊急連絡網等を用い、できる限り家庭での待機を呼びかける。</li> <li>児童生徒等が在校中においては、下校時刻であっても、児童生徒等を校舎内に避難させ、天候が回復するまで待機させる。</li> </ul> <p>※事前指導 登下校中での発生に備え、児童生徒等が自分で判断し身の安全を確保できるように、日常の指導の中で、竜巻等突風発生時のとるべき行動、安全な避難場所等について、十分理解させておく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>竜巻を見続けることなく、直ちに近くの頑丈な建物に避難する。</li> <li>(頑丈な建物がない場合は)近くのくぼみに身を伏せ、頭と首を守る。</li> <li>車庫や物置、プレハブ(仮設建築物)を避難場所にしない。</li> <li>橋や陸橋の下に行かない。</li> <li>飛来物に注意する。</li> </ul>	



竜巻を見続けない

#### (4) 留意点

- 休日や登下校時等においても、児童生徒等が自分で判断して身の安全を確保できるように、日常の指導の中で、以下の点について十分理解させておく。
  - ① 積乱雲がもたらす急な大雨、落雷、竜巻等突風について
  - ② 積乱雲の近づく兆しがある場合のとりべき行動について
  - ③ 雷や竜巻等突風の特性について
  - ④ 安全な避難場所について 等
- 校外活動中は教職員の指示や人員を把握しにくい状況であることを考え、早めの避難開始を心がける。また、テントや樹木等が倒壊したり吹き飛ばされたりする可能性もあるため、飛来物の接近にも注意させる。

#### 【局所的大雨に対する留意点】

急激な積乱雲の発達、落雷、竜巻等突風の他に、短時間での局所的な大雨（ゲリラ豪雨）をもたらす危険性もあることから、以下の点についても留意する必要がある。

- 河川敷など川沿いで活動する場合は、急な増水に備えて、速やかに川から離れられるよう、あらかじめ避難経路を確認する。橋の下での雨宿りは厳禁である。
- 上流にダムがある場合はダム放流を通知するサイレン等にも注意する。
- 1時間に20ミリ以上の強い雨が降ると、側溝や下水、小さな川が溢れることもある。都市部で地表がコンクリートで覆われているような場所では、1時間に50ミリ以上の非常に激しい雨で、地下室に水が流れ込んだり、マンホールから水が噴き出しふたが外れることもある。このような短時間強雨の場合は、川や用水路などの危険なところから離れ、しばらく屋内に避難させ、むやみに外に出さない。



小さな川が溢れることも...

## 3 事後の危機管理(立て直す)

### (1) 災害対策本部の設置

- ・ 災害の規模・被害状況等を踏まえた、学校としての組織的な災害対応
- ・ 消防防災計画で定める自衛消防組織との整合性、及び各学校の実状を踏まえた組織編成（本部長が不在の場合は副本部長が指揮を執ることとする）

### (2) 被害状況の確認等

- ・ 児童生徒等の安否確認及び心理面の状況把握
- ・ 学校施設、ライフライン等の被害状況の確認
- ・ 児童生徒等の家族及び住居等の被害状況の確認
- ・ 通学路等、近隣の被害状況の確認

### (3) 被害状況を踏まえた対応

- ・ 教育委員会への被害状況の報告、連携
- ・ 学校施設、ライフライン等の復旧
- ・ 通学路の安全確保
- ・ 児童生徒等の心のケア

### (4) 応急的な教育計画の作成

- ・ 教育施設の破損等がある場合の応急的な教育計画の作成と、保護者及び児童生徒等への連絡
- ・ 自宅学習を支援する学習課題等の提示
- ・ 注意事項等の情報発信

### (5) 避難所運営支援

- ・ 市町村・自主防災組織等との協議による学校施設の利用計画を事前に明示